

(ママやパパたちへ) 6月の育ちのころ「考える余地を残す五か条」

何でも「ね」で終える会話を、「4月5月のころ」でお伝えしましたね。

「たのしいね」「うれしいね」「かなしいね」「泣きたいね」と、ぜひ『ね』付きの子育て」をしてください。

きっと親子の会話がスムーズになるし、親子の関係があっただかくなります。

「ね」は、「ころをつなぐ魔法のことば」です。この6月も、「ね」付きで歩みましょう。ね！

園のスタッフは、毎日礼拝の時間をもっています。

3～5才のスタッフは、毎朝バスが出る前の時間に。0～2才のスタッフはお昼の時間に。

毎日、聖書を読み、祈ります。聖書は神さまの言葉ですから、神さまの言葉に聴くことから一日を始めます。祈りは神さまとの会話ですから、神さまとお話しすることから一日を始めます。

キリスト教保育の竜ヶ崎幼稚園として、何よりも大切にしている時間なのです。

この礼拝の中で、『考える余地を残す五か条』を、みんなで読んで確認をします。こんな内容です

①子どもの安全基地になること。心理的絆をつくりあげること。

②他児と比べずその子自身の進歩を認め誉めること。

③「生き字引」のように余すところなく定義を与えないこと。

④「裁判官」のように「判決」をくださず、「禁止」や「命令」ではなく「提案」の形で援助すること。

⑤子ども自身が考え、判断する余地を残すこと。

毎日子どもたちと過ごすときに、「これを大事にしよう」とスタッフはこころに刻みます。

そして、お家でもぜひこの『考える余地を残す五か条』を大切にしてほしいと思います。

つい、あれもこれもと子どもに求めがち。だから、言葉も禁止や命令用語になってしまう。

子どもからしたら、「ちょっと待ってよ」「私にも考えさせて」ってなるかも。

さあ、やってみましょう。「ね」をつけることと、「考える余地を残す五か条」。この二つを試してみよう！

皆さんのお子さんは、みんな「いい子」ですよ。とってもいい子です。

心配事が先立つでしょうが、そこは幼稚園に任せてください。

「ね」と「考える余地」だけ頑張れば、あとは大丈夫ですよ！！ (園長 飯塚拓也)